



Rainbow letter

2016.12
No.6

日本周産期メンタルヘルス学会・ニュースレター

<第13回日本周産期メンタルヘルス学会報告>

第13回日本周産期メンタルヘルス学会は、平成28年11月19日(土)、20日(日)の2日間、東京都墨田区両国の国際ファッションセンター(KFC) Hall & Rooms で開催されました。大会テーマは「周産期メンタルヘルスリテラシーの向上を目指して」でありました。初日はあいにくの雨模様であったにもかかわらず、2日間の参加者総数は532名と多数の周産期医療関係者の方のご参加を頂きました。主催者側を代表いたしまして心より感謝申し上げます。

今回の学会は事前登録システムを導入したことにより大よその参加者数を予想することができました。事前登録者数が400名を超えていたことから当初予定しておりましたメイン会場に加えて、ポスター会場でも座席を設けメイン会場の様子をテレビ中継するようにしました。結果的に両会場ともに一時的に立ち見状態となりましたが、大きな混乱もなく学会をつつがなく運営することができました。参加者の皆様には、大変ご不便、ご心配をおかけしましたが、これもひとえに皆様方の大会運営への温かいご理解の賜物と思っております。

特別講演は、1日目に北村メンタルヘルス学術財団代表理事の北村俊則先生、2日目に順天堂大学産婦人科学講座主任教授の竹田省先生にお願いいたしました。ご自身のこれまでの長い研究生活を振り返りながら聴講者へ熱い想いを語られておられた姿はとても印象的、かつ感銘的でした。シンポジウムは3つのテーマを掲げましたが、いずれのシンポジウムも各座長の先生方の適切な進行と、それぞれのシンポジストの方の良質なご発表もあり、会場は終始熱気に包まれていました。大会テーマである「ヘルスリテラシー」というキーワードを多くのシンポジストの先生方が意識してお話されている姿勢に大会長としてとても嬉しく思いました。11月下旬の寒い日であったにもかかわらず、メイン会場もポスター会場もその熱気に冷房調整したほどでした。



ポスター発表は口頭発表形式を採用しました。多くの演題を頂いたため3カ所同時のスタートとしました。この会場も大変多くの方にお集まりいただき、まるで会場内に3つの台風雲が発生しているかのような光景でした。あまりの多さに私自身会場内に入ることができないという初めての体験をしたことは驚きでした。



私自身、プログラム委員長を第12回に引き続き仰せつかりました。このため前年度とは異なる切り口によるプログラム作りを意識しました結果、第13回は2日目午前に研修会を実施してみました。多職種の集合体の中でお互いに相手の領域の知識を深めたいという気持ちは学会員であれどなたもお持ちかと思えます。「周産期関係者向け」と「精神医療関係者向け」に分けて、個別の研修会を実施しましたが、2会場ともに満席であり企画自体や研修内容も好評であったと聞いております。

来年は大分県立病院総合周産期母子医療センターの佐藤昌司先生が会長をされ大分市で開催されます。是非とも一人でも多くの方にご参加いただき盛会となりますことを心より願っております。最後に、参加されたすべての皆様にご感謝の気持ちをお伝えし、皆様方の一層のご活躍をお祈りしまして第13回大会のご報告をとじさせていただきます。それでは、皆さま“See you in Oita!”(第13回大会長・理事/鈴木利人/順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック教授)

<学会事務局便り>

日本周産期メンタルヘルス学会会誌について

次号学会誌の発行は、2017年5~8月頃を予定しております。論文投稿締切日は、2017年2月28日(火)までといたします。ご投稿いただきます際は、投稿規定をご参照の上、締切日までにお送りください。

次回学術集会開催予定

～第14回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会～

テーマ 「こころも、視る。」

日時 2017年10月28日(土)・29日(日)

場所 大分県医師会館(〒870-8563 大分市大字萩原2892の1)

会長 佐藤昌司

(大分県立病院総合周産期母子医療センター所長・産科部長)

◆詳細は決まり次第、ウェブサイトへの掲載とメール配信でご連絡いたします。

((投稿記事募集!))

会員の皆様にとって有用な情報をニュースレターで取り上げていきます。詳しくは学会ウェブサイト(→QRコード、<http://pmh.jp/index.html>)または、学会事務局(E-mail: mental-3@hac.mie-u.ac.jp)まで。

*企画・発行: 日本周産期メンタルヘルス学会 事務局・情報関連委員会

